

ベトナム 官民ミッション

2015年9月



ベトナム保健省ディスカッション

今回が3度目となるベトナム官民ミッションは、今後のビジネス創出により重点を置いて、保健省や現地病院、現地企業とのディスカッションをメインとした開催とした。

日程：2015年9月8日～10日(3日間)
都市：ベトナム社会主義共和国・ハノイ市
学識経験者：

福井大学附属病院 山下先生
参加企業(順不同)：

アライドテレシス、ジェイマックスシステム、
日本電気、富士フィルム、日立製作所、
日本光電、オリンパス

Bach Mai Hospital訪問

ベトナム最大の公立病院で医療ICTに関する取り組みを紹介頂き、現状の課題に関するディスカッションを行った。

日本からは日本の医療ICTと画像診断技術を紹介した。バクマイ病院の各部門では既にITシステムの導入が済んでいるものの、部門間の連携が課題であることや、PACSの運用をしているものの、業務フロー上フィルムへの印刷におよそ1億円のコストがかかっていることなど、現状と課題を聞き出すことができた。

Saint Paul Hospital訪問

ハノイの中規模病院における医療ICTの実態を把握するため、ハノイ市立のSaint Paul Hospitalを訪問した。

病院からは現在使われている機器やHISに関する説明があった。医療情報の電子化に関するメリットについては良く理解している様子だったが、導入に関しては大規模な予



(写真) 副院長の挨拶

2015年度ベトナム官民ミッション開催

～ 日本の医療ICTと画像診断 ～

2015年9月8,9,10日 ベトナム・ハノイ

算を獲得することが難しい様子で、少しずつ段階的に実施をする必要があり、なかなか進んでいない状況であることもわかった。病院見学では現在使用している画像診断機器や富裕層向けにホスピタリティを重視した新しい病棟などを案内頂いた。更に、現在使用しているHISについても実機を用いた詳細な説明があり、予定時間を大幅に超えた対応をして頂くことができた。

FPT Information System訪問

ベトナムの最大手ITベンダーであるFPT Information System(以下、FIS)を訪問し、現在の医療ICTへの進出状況のヒアリング及び協業可能性に関する協議を行った。

FISはBach Mai病院をはじめ多数の病院へHISをはじめとしたシステムの納入実績がある。ディスカッションの場ではFISの製品であるHISに関してデモンストレーションを交えながら詳細に説明があった。FISとしては現在FISが持っている様々なソリューションを組み合わせた「スマートホスピタルソリューション」を展開したいとのこと。また、日本のODAや経済産業省事業で日本企業のローカルパートナーとして協力していくことも可能であることを示し、日本企業との協業に関して意欲的であることが伺えた。



(写真) FISとの記念撮影

ベトナム保健省訪問

厚生労働省とベトナム政府の間で結ばれた覚書(MOC)の中で記載のあった「日本の医療ICT技術の紹介」を実現し、今後現地で控えている案件へと繋げることを目的にベトナム保健省を訪問。ディスカッションを実施した。

山下先生からはICT導入の具体的な費用対効果や、地域医療連携などまさにベトナムが課題として認識している部分に関して説明を頂いた。対するベトナム保健省は山下先生のプレゼンについて興味深そうに聞いており、システムの整備期間や規模など、細かい部分に対してまで質問が及んだ。

ベトナム保健省からはEHRや遠隔医療、等の法律制定や、EMRの開発、ワーク管理システム、医療情報技術のトレーニングなどに関する日本との協力提案があり、ミッション終了後に対応を検討することとなった。

JICA Viet Nam Office訪問

JICAでは本ミッションに関する結果訪問を実施し、その後JICA取り組み事業の説明、ディスカッションへと移った。

JICAの支援はベトナム政府の「2020年工業国化目標」に基づいて支援の方針を作っていること、各プロジェクトに関する説明があった。その後のディスカッションではJICA案件に対して日本企業がどのような支援ができるのかといったことから、ベトナムでの保険制度の詳細にまで話が及んだ。